

## 第2回犬川小学校学区再編検討委員会会議録

- 1 期 日 平成27年9月11日（金）18時30分～20時45分
- 2 場 所 犬川地区交流センター
- 3 出席委員 田村委員長、横山副委員長、神野委員、青木委員、寒河江委員、猪股委員、荒井委員、渡邊委員、佐藤委員、大河原委員、奥村委員、荒木委員
- 4 欠席委員 島貫（光）委員、江口委員、島貫（純）委員
- 5 事務局 緒形課長、有坂主幹、佐々木主任
- 6 会議経過  
有坂主幹の進行で進められ、田村委員長のあいさつにより開会された。
- 7 協 議  
田村委員長が議長となり、次の協議を行った。

### (1) 統廃合の必要性について

はじめに、事務局から前回の資料に加え、次の資料を配布し説明した。

- ① 山形県内市町村ごとの小学校数の推移（平成27年度確定版）
- ② 小学校児童数・学級数推移予想表（平成27年5月1日現在）
- ③ 地域活性化の拠点として学校を活用した地域づくり事例調査（総務省発行）
- ④ 白鷹町鷹山小学校の再編状況資料

質疑等なし。

次に、前回の委員会（7/8）から約2月が経過し、様々な場面で意見交換した状況も想定されることから、各委員の考えを述べてもらうこととした。

**委員：**②の表をみると高山小、玉庭小、東沢小は複式学級がほとんどであるが、犬川小は現1年生が2学年から6学年までの5年間の部分のみだけ複式学級になるということで再編を話し合うにはまだ早い段階だと思う。

また、中津川地区へ行くことがあり、平成25年度に統合をしたと聞いて地区内の様子を見てみたが、小学校がなくなって活気がなく見えた。全校生徒数50人をきるあたりから話し合いをするべきと考える。地域とは小学校があつての地域なのだと思う。

**委員：**資料を見てみると現状高山小、玉庭小、東沢小は複式学級で学校運営しているということもあるので差し迫っているように思える。犬川小については、今年の1年が卒業するまでの5年間（平成28年から平成33年）と1年おいて平成35年の時が複式学級となるが、複式学級が該当するのは二つの学年のみということなのでどう判断するかである。統廃合を考えるほどまだ機が熟してないと思う。地区内で再編の話をしてもらっても同じ結論にしかならないと思う。

**委員：**家族が複式学級に該当する学年である。このクラスの人数で教育効果が

上がるのか不安がある。地域活性化の観点では小学校があった方が良く  
考える。子供たちの立場からどうなのか考えさせられる話である。

**委員：**小学生の時に複式学級を経験したことがあるが違和感を感じるものであ  
った。地域活性化の観点からも小学校がなくてはならないと考える。犬川  
小学校をこれからも存続するために地区は協力をしていくと思う。

**委員：**平成35年に再度複式学級が生じた場合何人になれば解消になるのか。

**事務局：**1人増えれば複式は解消される。

**委員：**犬川地区をもっと盛り上げていき小学校の生徒数を増やせば小学校がも  
っと続くと思う。人数的には決して多いとは言えないが、複式のみを解消  
するという視点からみれば、何とかなるように思える。犬川小学校を継続  
して、平成35年以降の状況から考えていけば良いのではないか。統合は  
もう少し先に考えても良いと思う。

**委員：**母校が無くなるのはさみしいと感じるが、子どもたちの気持ちになると  
友達が少なく、一人での下校はさみしく感じているのではないかと思う。  
大勢で活動できるようにできれば良いと思う気持ちがある。中学校は1校  
しかなく、いじめなどの問題もでてくるという心配もある。少人数ではそ  
ういうことに対応ができないのでは。という心配も考えられる。転入者が  
いればそれに越したことはないが、難しい話ではある。

**委員：**よく考えなければならぬことである。ほかの保護者から話を聞いてみ  
たが、競争できるような雰囲気をもたせたいというのと、複式学級の学  
習は復習・予習ができて意外に良いのではないか。など聞いたことがある。  
小学校が無くなると地区運動会も併せて無くなるのではないかと感じて  
いる。

**委員：**資料を見ても犬川小学校は差し迫った問題ではないと考える。犬川地区  
の人々がまだ再編（統合）を考える気持ちにはなっていないと思う。やっ  
ていけなくはないなと感じる。それ以前に、役場は人口が増える努力をし  
ていただきたい。地元で暮らして、子育てをしている者としては小学校が  
無くなるのは寂しい。

**委員：**犬川小学校は自身が通うところから少ない人数とは言われていた。たくさ  
ん友達がいる方が楽しくて良いのではないかと思う。犬川小がどこかと統  
合するのはいずれ考えられることである。子どもが少なくなっているのは  
どこの地区で同じである。ただし、統合になったらなったで大変なところ  
はある。今ある犬川小のグラウンド整備など、考えなければならぬことが  
出てくる。そういうことから統合が良いとも複式が良いとも言えない。こ  
れから子どもを増やすというのは難しいとは思いますが、犬川地区は努力して  
いるし、これから効果が出てくると思う。

**委員：**家族が複式学級にあたるがイメージがわからない。自身の頃は22、3名  
の同級生がいたが、その頃でも少ないと感じていた。白鷹町の保護者に話

を聞いたことがあるが、鷹山小学校の統合問題は何度も出ては消えてを繰り返していた。保護者は賛成していたが、地域の反対があったからだと言っている。そのとき保護者からでた意見で、子供の将来に地域はどこまで責任を持つのかという言葉があったのを思い出した。

小学校は子供の教育の場であるので、考えて結論を出さなければならぬ。まだ時期ではないと思うが、おおむね10年以内という考えがあるのであれば、そのうち再編になっていくのかなと思う。

**委員：**委員のみなさんはいろいろ考えていると思う。地域の事業は小学校を中心に考えて計画している。小学校が無くなれば事業ができなくなるのではないかと思う。子どもたちのことを考えると適正規模を考えていかななくてはならないと思う。複式学級は片方の学年が授業、もう一方の学年が自主学習をしており、自分で学習するという力がつくが、競争心がわからないのではないかと思う。社会性を作るという場面では、中学校へ行った場合溶け込めるかが心配である。

ある程度子供たちのことを考えながら、規模など長期的スパンで描いていかなければならないのではないか。

**議長：**人数（生徒数）で統廃合がクローズアップしてしまった。複式学級イコール統廃合ではないと考える。子どもたちにいかに良い教育環境を与えるかを考えなければならない。川西町は少人数学級で学力が低いということがなく逆に手厚く教えてもらい学力も十分備わっていると思う。各委員の意見をうかがって、再編は先でも良いのではないかという意見が多かった。また、複式学級を見たことがない方ばかりなので、教育現場を見に行つてということも考えなければならない。来年から複式学級が始まるが、平成33年度には一度解消する。

学校が無くなると、地域は良くなる。

もっと意見がある方は是非発言をしてください。

**委員：**統合を考える場合一番に考えなければならないのは子どものことである。ある程度の人数がいれば良いのは分かるが、地域として考えれば犬川地区は幼稚園、中学校が地元にはなかった。だから犬川地区では小学校にこだわりが強いのではないかと思う。ただ、どの時点で統合を考えていくべきなのかを考えなければならない。また、中学校は一つなので、スムーズに入れる環境を整えてあげることも大事である。地域のエゴを押しすべきではないこともある。ただし、今は気が熟していない。

**委員：**今まで出た子供たちのことを考えるという意見からいけば、大多数の子どもたちのことを考えれば、3人の1年生のために、そこまでしなければならないかと思う。

**委員：**1クラス10人をきいたら統合を考えていかなければと思う保護者もいるのではないか。今回のような3人だけ、複式ができるということで統合

を考えていくのではないと思う。

**委員**：意見を聞くなら子供たちがいる保護者ではないか。

**委員**：統合をするかしないかについての意見を聞くのであれば、小学校低学年から幼児・乳児の保護者へ聞くべきである。

統合までは、最短でどれくらいの期間がかかるのか。

**事務局**：相手校が決まりいざ統合となるまでは最低でも2年はかかると考えている。

**委員**：アンケートを取るということはできるのか。

**事務局**：委員会の中で実施するとなれば合意形成の手法の一つとして可能である。

**委員**：アンケートはよほど設問を考えていかないと、良い面と悪い面両面があるため、慎重にしなければならない。

**議長**：この中で統合に緊急性を感じる方は。また、もう少し先延ばしてもいいのではないかと思う方は。また、複式学級を経験した状況を見てから判断した方が良いのではないかと考える方がいれば。

**委員**：子どもが多い学年と少ない学年と波がある。今年は、たまたま3人だった。平成34年以降考えていけば良いのではないか。複式学級は1つできるが、統合まで考えることはないと思う。

**委員**：犬川小学校の学区にこだわらず、下小松、千松寺、上黒川などを犬川小学校へということは考えられないのか。

**委員**：学区の変更も考えていってほしい。犬川地区は犬川小学校へ来てほしい。

**議長**：その件は、町の問題もあるし地域の課題でもある。

**委員**：子供たちのために統合したとなった場合、統合をして何が良いのか具体的なことは何か。競争心が生まれる、団体活動ができるなどのほかにメリットは何があるのか。今より子供たちにとってどう良くなるのか。

**議長**：マイナス面を統合によって補うことになる。学校における弊害をカバーするということもある。

**委員**：全校児童数50人をきったとき、再度再編について考えるべきである。

**委員**：町は、統合推進なのか。

**事務局**：以前平成18年の統合計画があったが、小学校については、慎重意見が多く、話が進まなかった。児童数の推移をみる限り、子供たちにとって教育環境は1クラス何人の子どもたちがいれば良いのかを考えるものである。国の指針で小学校の規模の適正化が出ている。子どもたちの将来や社会性を考えたとき、1学年1学級以上あった方が良いという手引が出されている。町としても再編の検討を始める基準を作成した。統合については、地域や保護者の合意を得て進めるべきと考えているので推進をしているというわけではない。平成18年度案は白紙ではないが、段階的な統合も含めて話し合っていたら、準備が整ったところから10年以内を進めて

いただければ良いのではないかという内容である。犬川地区では時期尚早というのであれば地区の意見を尊重し、そのまま学校運営をしていくことになる。

**委員：**地域の活力という面は別として、子供たちの活動について考えた場合、今までは人数がいたから1つの地区に1つのスポーツ少年団の活動ができていたが、今は町1つのスポ小で活動している。子供たちを見ているとたくさん地域の子供たちが集まっており、友達がすぐできることから順応性があるのではないかと思う。統合に向けた意見ではないが、子供たちの活動の範囲ということから考えると、もっと広域の場も必要になってくるのではないかと考える。

**委員：**第1中学校・第2中学校・玉庭中学校が統合となったときは、みなさん賛成だったのか

**事務局：**平成8年の統合の際は施設の老朽化ということで、大塚中を第1中に、吉島中と中郡中を第2中学校となった。平成23年の統合については、児童生徒数の減少ということがあった。また、部活動の制約など、高校進学を見据え、子供たちを活気のある環境で学ばせたいという意見が多かったように思える。子供たちの学習・部活を考えるとさまざまな意見はあるかと思うが、先行して統合させていただいた。小学校については平成23年度で児童数が900名を超えていた。ここにきて、平成34年には610名と大幅な減少となることが見込まれ、今後の小学校のあり方を考えていただく機会を設けて、必要性があれば先に進んでいただくということになる。

**委員：**自身も平成23年度の統合に関わっていたが、もちろん全員賛成とはいかず、特に第二中の保護者からは吸収合併だと反発があった。今年で4年目だが、結果として、学校が荒れることや、いじめの問題などそんなこともなく、スムーズにいったのではないかと思う。部活などでもメリットが大きかったと思う。

やはり子供たちは順応性が有り、親が心配するほどトラブルはなかったようだ。

**議長：**統合は、今のところ時期ではないということで結論は良いのではないか。

**委員：**今回はそれで良いと思うが、小学3年以下の保護者からアンケートを取って調査をしておくのも良いのではないか。

**議長：**今の意見に関して、各委員の考えはどうか。

**委員：**幼児施設でアンケートを取ったことはないか。

**事務局：**1回目の委員会資料として、幼児施設を回った際の保護者の意見は記載している。

今年度の入学生の保護者から複式学級を不安視する声があったが、犬川小学校長は前任地で複式学級を経験しており、保護者へ説明をしてい

ただいた。学力では単式学級と複式学級では大きく差が出ないと教育委員会でも考えている。ただし、先ほどの経験された方の意見にもあったように、担任が1つの時間に2学年の学習を進めるとするのは負担は大きい。

また、1時間の半分しか授業時間がない。自習の時間は子供たちがお互い教えあったりしながら進めていく。ただし、子供たちがどう感じるかはわからない。

**議長：**少人数学級では団体行動、競う力が育たないのではないかとあったが、中学校へ進学したとき東沢小学校や高山小学校は若干そういった力が弱いのではないかと捉えられるのか。

**事務局：**子供たちは順応性があるのでかならずしも弱いとは言えないかもしれない。ほかの学校へ出向いて交流学习も行っていることから、中学校へ進んでもスムーズに人間関係を築けるように小学校で取り組んでもらっている。

**議長：**この委員会は何回開かれるものか

**事務局：**計画では4回と考えているが、それぞれの地区での進行具合により、回数増減も考えられる。

**議長：**予定では3回目は12月頃。アンケートを取るかどうか意見は。

**事務局：**どのような意図でアンケートを取るのかが重要。意見聴衆するだけか、それとも、その意見をこの会に反映するのかなどを決めなければならない。また、設問も大変重要である。

**委員：**保護者を集め、説明をして、最後にアンケートを記入してもらうような事を考えてなければならないか。

**事務局：**きちんとした情報を伝えた後でなければ。実施できないと考える。

**議長：**アンケート先行ではなく、この会ですでに統合は次期尚早と意見が出そろっているのであれば、その必要はないのではないか。ただし、この会で、まだ統合を考えなければならないとなるのであれば地区にも話をしなければならぬと思う。複式学級というのも経験してみないと分からないことがある。

**委員：**統合しなければならないと考える人がどのくらいいるのが分からない。

**議長：**それは委員会の意見が最優先である。

**委員：**統合を先送りするということで、アンケートを取ってみてはどうか。

**委員：**今の3人の保護者の立場になると、どう考えるのか。聞いてみたい。

**議長：**統合を決めるのは保護者、地域である。当面、子供たちにどのような環境を与えるのかを考えなければならない。10年、20年先は今検討する内容ではなく、その時代に考えていってほしい。

**事務局：**どのように地区の合意を図っていくかですが、地区のいろんな話し合いや会合で話題提供をしていただき、意見を集めるという手法もあるよ

うだ。

**議長**：次回、準備してもらったものがあったら、意見を。

他の地区の話の進み具合を聞いてみながら進めていきたい。

**事務局**：ほかの地区も今月中に行う。第2回目の議事録からHPにも掲載予定である。

今回話し合われた内容や統合についての方向性について次回案として出させていただき、委員の皆様を確認を取りたいと思う。

**議長**：結論ではないが、次回の委員会では、これまでの意見にさらに話を重ねていきたい。

そして、12月にまとめをできるように進めていきたいと考える。

閉会（20時45分）